

TYPE OF
INDUSTRY

和魂洋才 世界のリーダーへ

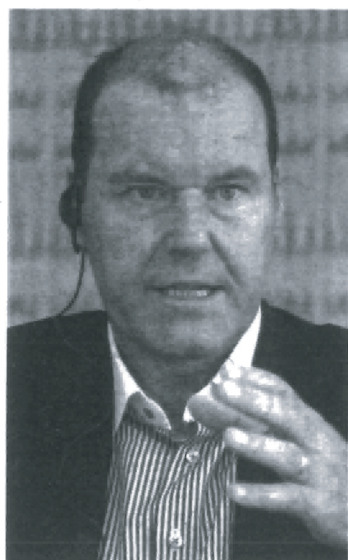
武田薬品工業®

挑戦
する企業

「アイランド製薬大手シャイアーの買収で武田薬品工業の創業研究力は向上しますか。」

「研究開発の生産性は業界の問題であったし、長い間、武田にとっての問題でもあった。生産性を上げる取り組みは軌道に乗ってきてはいるが、シャイアーはそれをさらに加速してくれる。一つ

社長 クリストフ・ウェバー氏



後継者、社内軸に登用検討

「モダリティ（創業手に閉じこもらず、パートナーシップを組む能力だ。シャイアーにもそういう考えがある）」

「モダリティ（創業手に閉じこもらず、パートナーシップを組む能力だ。シャイアーにもそういう考えがある）」

素材・ヘルスケア・環境

「最初（14年）に入社してからは、非常に重要なポジションから、10年程度はいるだろうなと思ってた。でも、外でも良いか、どんな会社になりたいのか、その方が会社に25%にならな部分もある。25年には私は58歳で、年をとってくる。10年もたてば、部下も私に飽き飽きすると思う。」

「そのころまでに後継者が育ちますか。」

「今やっているし、全体的に人材育成プログラムが広がっている。この人材が私の潜在的な後継者になりうる。社内（この項おわり。斎藤弘和が担当しました）」

世界鉄鋼協会（本部）生産量は13億4698万7000トンで、前年同期を4.7%上回る高水準となった。9月は世界生産量の約半分を占める中国の合計で1億5171万1000トンと前年同月比4.4%増、29U）やインド、米国の月連続で前年同月を上回った。5カ月連続で1億5000万トンの大台に乗り、世界的な需要回復が続いていることを示した。2018年1-9月期の累計

粗鋼生産、世界4.4%増

9月5カ月連続1.5億ト超

の大きさは国内の能力だけに閉じこもらず、パートナーシップを組む能力だ。シャイアーにもそういう考えがある。」

「モダリティ（創業手に閉じこもらず、パートナーシップを組む能力だ。シャイアーにもそういう考えがある）」

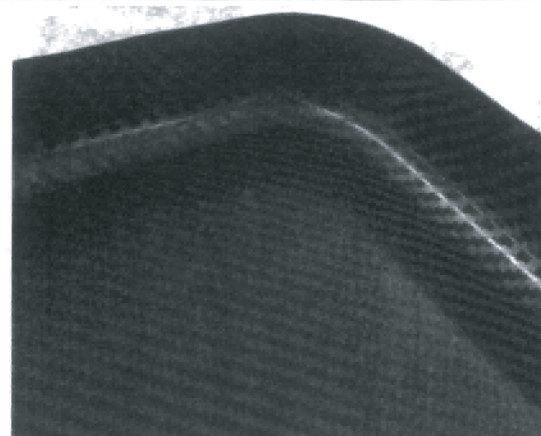
「ミセル化ナノ粒子」
皮膚科領域 医薬品展開

ナノキャリアは、同様に展開する。同粒子が展開する技術「ミセル化ナノ粒子」を皮膚科領域における医薬品を増加させられること

「最初（14年）に入社してからは、非常に重要なポジションから、10年程度はいるだろうなと思ってた。でも、外でも良いか、どんな会社になりたいのか、その方が会社に25%にならな部分もある。25年には私は58歳で、年をとってくる。10年もたてば、部下も私に飽き飽きすると思う。」

「そのころまでに後継者が育ちますか。」

「今やっているし、全体的に人材育成プログラムが広がっている。この人材が私の潜在的な後継者になりうる。社内（この項おわり。斎藤弘和が担当しました）」



連続繊維CFRP成形品。自動車部品などへの採用を目指す

The MOT Company（東京都大田区、済藤友明社長、03・3757・5255）は、炭素繊維強化プラスチック（CFRP）やガラス繊維強化プラスチック（GFRP）などの繊維が切断されない連続繊維で独自の成形法を開発した。プリフォーム（中間基材）による予備成形なしで絞り形状にプレス成形できる。軽量化と強度のある部品の量産を実現する。自動車部品などへの採用を目指す。

The MOT Company 絞り形状にプレス

連続繊維は縦糸と横糸が重なった織物状に少なく、金属のように、成形するのが難しい。新技術では、プレス時にアール部分の糸を、強度を保ったまま緩ませることで箱型など絞りのある成形も可能にした。現在特許を申請中だ。

これまで連続繊維のCFRPの成形では、プレスをする前に炭素繊維を製品の形状に予備成形する過程があった。同社の技術では1回のプレスで短時間で

生産できるため、より量産に適している。近年、自動車の燃費向上のため金属の代替として軽量のCFRPやGFRPが注目を集める。しかし連続繊維は成形自由度が低いため、細かく繊維が切断された不連続繊維の素材を使用するのが一般的だった。

SDGS推進包括協定

神奈川県と東カス エネ・環境分野で連携



【横浜】神奈川県と東京ガスは25日、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に向けた取り組みを推進する包括協定を締結した。県事は締結式で「両者で民に対する災害対策のタッグを組み、環境に普及啓発、県立高校に優しいエネルギーを広げるエネルギー・環境分野で連携を」と力を

イテン）よりも軽く、高強度の素材として活用できるという。2016年には独自の加熱冷却一体成型を使用し、短時間で効率よくCFRPを加工する技術の特許を取得。複雑形状の部品にも対応できるように同技術も改良を目指す。同社は主にCFRP

「最初（14年）に入社してからは、非常に重要なポジションから、10年程度はいるだろうなと思ってた。でも、外でも良いか、どんな会社になりたいのか、その方が会社に25%にならな部分もある。25年には私は58歳で、年をとってくる。10年もたてば、部下も私に飽き飽きすると思う。」

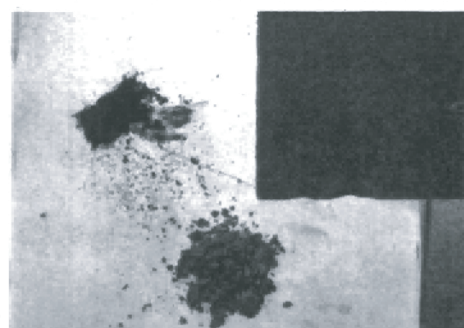
「そのころまでに後継者が育ちますか。」

「今やっているし、全体的に人材育成プログラムが広がっている。この人材が私の潜在的な後継者になりうる。社内（この項おわり。斎藤弘和が担当しました）」

file
いい話

リサイクル事業を拡大

廃棄プラ炭化システム 大木工藝



好調を受け、現在3億円に再資源化し販売する。の売上高を2年後に10億電気自動車（EV）の電圧へ拡大を目指す。

産廃業者から廃プラスチック（マイクログラ）の100万トン以下の微粉末、土の工場で活性炭（写真）壊改良材や建材向け粗粉未などを提供してき